

タキイ培土の上手な使い方

●播種する作物に適したトレイを選択します。

高温時に育苗する場合は、白トレイを使用することでトレイ内部の温度が抑えられ、苗が徒長しにくく、葉がトレイに触れても焼けにくくなります。



●根巻防止ワンウェイセルトレイ288穴



●セルトレイM型

タキイ培土:使用量の目安(1袋50g当たり)

容器の種類	規格	1袋当たり
タキイセルトレイ	72穴	約13枚
	128穴	約16枚
	200穴	約15枚
	288穴	約16枚
	406穴	約26枚
連結ポリ鉢合体くん	7.5cm(40鉢)	約6枚
	9cm(24鉢)	約6枚
	10.5cm(20鉢)	約4枚
ペーパーポット	72穴	約7枚
	128穴	約10枚
	220穴	約12枚
チェーンポット(ネギ用)ポリ鉢	264穴	約10枚
	9cm	130~140個

※当社測定の目安です。

●培土充填 トレイに培土を詰めます。



●水を加える



●かき混ぜる



●土入れ作業



●すり切り

培土は袋からそのままトレイに入れて使用できますが、より培土の特性を生かすためには、詰める前に水を加えてかき混ぜ、培土に空気を入れてやりましょう。通気性が増し、発芽や発根がよくなります。(培土50gに対して水1g~2g)

乾いた培土をトレイに詰めると、培土がかたくなってしまいうため、通気性が悪くなって、根浮きや発芽不良の原因となることがあります。

●灌水

培土内部が十分に湿る程度に灌水します。

(ウリ科野菜では、播種前の灌水はほとんど必要はありません)。

トレイの底穴から水がたっぷり出てくるような灌水では、過湿によって種子の酸素不足が起こり、発芽不良の原因となることがあります(特に葉菜類)。やりすぎに注意してください。



●ジョウロやハス口を使い、ゆっくり均一な灌水

●「合体くん」(タキイ根巻防止連結ポリ鉢)などのポットに培土を詰め、培土内部が十分に湿る程度に灌水します。

播種作業同様、培土は袋からそのままポットに入れて使用します。より培土の特性を生かすためには、詰める前に水を加えてかき混ぜ、培土に空気を入れてやりましょう。通気性が増し、活着がよくなります。(培土50gに対して水1g~2g程度)



●培土詰め



●移植作業



●合体くん

留意点

ほかの資材や土を混合すると、病気や雑草の発生の原因になるなど、培土全体のバランスが失われるので、そのまま使用してください。

一度開封した袋の培土は、なるべく早く使い切ってください。未開封でも購入後1年以内に使用するのがよいでしょう。